

第2回 仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会 議事録

- 1 日時 令和5年7月5日（水）13時00分～15時00分
- 2 場所 日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）
交流ホール
- 3 委員出席数 出席委員9名（垣内恵美子会長、吉田利弘副会長、五十嵐太郎委員、笠原信男委員、菅野幸子委員、佐藤李青委員、柴崎由美子委員、庄司遥委員、山田淳委員）
欠席委員1名（青木ユカリ委員）
- 4 議事録署名委員 垣内恵美子会長、笠原信男委員
- 5 議事要旨

1. 開会 2. 事務局紹介

- ・司会より資料机上交付について説明。
- ・令和5年4月1日付け人事異動により新たに着任した職員を紹介。
- ・9名の委員の出席により、要綱第5条第2項に規定する定足数を満たしていることを報告。

3. 意見交換

- ・以降の進行役は垣内会長が務める

【懇話会の運営の確認】

- ・懇話会の公開について確認。懇話会は原則公開とし、審議の中で非公開とすべき部分が出てきた際には、その都度、委員の皆様にご諮って決めることとし、各委員了承。
- ・議事録の作成について確認。事務局が作成した議事録の案について、会長と他委員1名で確認、署名をして議事録とし、仙台市のホームページ等で公開すること、および議事録に署名をする委員は持ち回りとし、今回は笠原委員に依頼をすることとし、各委員、笠原委員了承。

【（1）（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の方向性について】

- ・事務局より資料1から資料4に基づき説明。

垣内会長 ご説明の中にもありましたように、本日の懇話会はこれから計画を策定するにあたっての方向性を示すということです。1回目は大枠について色々なご意見を頂戴したわけですが、今後計画に落とし込んでいくというこ

とで、方向性を示していきたいということです。まず、前段では様々な調査の結果を振り返り、仙台市の文化芸術の強み、個性、課題について確認し、それらを踏まえた方向性、仙台市が今後文化芸術の面で目指す姿について事務局案をご説明いただいたところです。さらに計画全体を貫く基本理念を今後検討するということですので、そのキーワードとなるような言葉についても併せて提案するように求められているところです。

本日の議論のあり方ですが、2つのテーマに分けて意見交換に入りたいと思います。もちろん状況に応じて2つ合わせてコメントを頂戴しても構いませんが、まず最初に強み、個性、課題を踏まえた方向性、5つの目指す姿につきまして委員の皆様からご意見を頂戴できればと思っております。2つ目は基本理念に相応しいと思われるキーワード、なかなか難しいと思うのですが、このあたりについても色々なご意見、ご提案を頂戴できればと考えております。

それではまず、強み、個性、課題を踏まえた今後の方向性、目指す姿につきまして、事務局案を基に、あるいは事務局案から離れても構いませんのでご意見を頂戴したいと思います。本日は発言順の指定はございませんが、五十嵐委員が時間の制約があるということですので、最初にご意見を頂戴し、その後、挙手にて指名された方にご発言をお願いしたいと考えております。それでは五十嵐委員、よろしいでしょうか。

**五十嵐
委員**

文化芸術を何に限定するか、どこまでを文化芸術というのかという範疇、決め方もあるのですが、ちょうど今月オープンした茨城の水戸市民会館という新しくできた施設を先月見に行きまして、専門的なホールが3つありまして、1つは練習室も兼ねるのですが、それ以外の余白のような空間が豊かでした。現在は想定されていないような文化芸術の活動に将来的に対応でき、単なる居場所としても、ホールを使わない人でも、通り抜けも含めて、そこにしばらく滞在することができる場になっています。つまり、可能性が開かれていると思えました。そういったものを含むような場になるというのがとても現代的なあり方だなと思ったので、全て文化芸術と言えばそれでいいのですけれども、そういった現状では想定されていないものに関しても広く受け入れる余剰のスペースといったものが、居心地の良い空間として存在するといったなと思えました。

垣内会長

ありがとうございます。ホールのご紹介もありました。それでは意見交換に入りたいと思いますので、挙手のうえ、発言をお願いしたいと思います。委員の皆さんがお考えになっている間、水戸のホールには私も少し関わり、コンペの時に委員として参加させていただいたので、このコンセプトについて少しだけ発言させていただきます。(水戸市では)市長さんが非常に熱心

で、なぜ熱心だったかという、水戸がこのまま人口が減っていく中で、何もしないと中心部が衰退していく。特に県庁が少し遠い所に移転してしまったので、そちら側が非常に衰退したということがありまして、京成デパートの前の大きな土地を皆さんが、市民の人たちが集える、そのような拠点でありつつ、文化の拠点にしたいという非常に強いご意向がありました。それで、伊東豊雄さんのホールが最終的にコンペで採択されたわけですが、その時のコンセプトというのは、公演を行うというのはもちろんなのですが、公演が行われていないときも、例えば午前中は病院帰りのお年寄りが少し休んだり、あるいはお茶を飲んだり、カフェなどもあって、昼はママ友が皆でやってきてランチを食べたり、あるいはランチコンサートなどを聴いたり。また中高生も多いので、劇場に来ていただいて、宿題をやったりお友達とおしゃべりしたり。そして夜は大人の時間。ということで、1日中、色々な形で市民の方に楽しんでいただく、そういった共有空間を設けるという強い意向があったと承知しております。また、仙台市の方でも複合施設の議論がこの間、最終報告が出たかと思いますが、同じように新しい広場として多くの市民の方に色々な形で使っていただき、いつでも身近な施設として来ていただける、そのように開かれたものにしようという方向性も示されており、非常に期待が持てると思います。

それでは佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員

前回の議論で仙台の状況を色々といひながら、計画は横断的に何か軸を出していくものだということを感じていました。改めて資料で整理いただいて、仙台の文化芸術の面でどういう軸を立てていくのかを今日は考えていく必要があると思っています。少し先走った話になってしまうのかもしれませんが、この懇話会は、それほど残りの回数はないので申し上げたいことがあります。計画策定の目的のところ、(仙台市の文化芸術に関する施策を)体系的に整理するという、文化振興の新たな方向性を示すこと、また計画期間が5年間であるということが書いてあります。前回の議論を踏まえると、今、仙台には様々な活動があり、それらの活動自体をより良くしていったり、横のつながりをつくっていったり、今足りないものや、よりその状況を良くするために何かの施策が必要であることが見えてきたかと思えます。この計画を作るにあたって議論していく中で見えてきた取り組むべきことが、(計画をつくった)次の段階として非常に重要になってくるのではないかと。そう思った時に、計画の5年という時間の中でどの辺りをどこまで達成することを目指していくのかということと、更に言うとそこから先、この計画自体の動きはどのように動いていくのか。つまり(この計画が)今ある事業の全体の理念になるものなのか、それとも複合施設の話もありますが、

改めて、足りない活動みたいなものを施策として打っていくのかという方向性によっても、軸の立て方は変わってくるのだと思います。この計画自体が新たな方向性を何か実現していくための目標になるのであれば、おそらく5年という時間は基盤づくりであったり、準備や種まきのような活動になってくると思うのですが、そういった基盤づくり、さらには何か体制をつくってやっていくのかということをごどのように考えていくのか。その辺りを想定していく必要があると思います。

垣内会長 ありがとうございます。通常ですと、条例があって、それに基づいて基本計画があって、基本計画に基づいて実施計画があって、それぞれのところに事業がぶら下がっていくというような形が一般的なシステムとして想定される場所ですけれども、それぞれの地方自治体によって状況は多様です。これまでの検討や実施の状況、人々の考え方、行政のあり方というものも非常に地域性があると思います。仙台市としてどういう形で何を進めようとしているのかというあたりについて事務局の方から補足をお願いできたらと思います。

文化観光局長 まず、今回この計画の策定にあたりまして、仙台市で初めて策定する計画ということもございますので、あまり枠にははめない形で、アンケートやヒアリングなども行っておりますが、色々な方から、どのような計画を作っていくのかということも含めてご意見を伺いながら作っていきたく思っております。こういうことをしなければいけないとか、こういう方向でいきたい、などとあえて我々としては考えを持たないつもりでございます。

一方で先ほどから話のありました音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設を今、基本構想をもうすぐ策定という段階まで来ており、これが並行して動いている状態です。本日、参考資料の3としてお示ししておりますが、こちらのスケジュールを一例として載せていますが、令和13年の開館を1つの目安として考えております。8年後でございます。こちらの方はまだ基本構想段階ですので、これから基本計画、設計というようなステップを踏みながら具体化していくわけでございますので、ある意味、この計画と並行して走ってまいります。お互いフィードバックしながらこの2つの大きなプロジェクトを進めていきたいなど。ですのでこの計画につきましては、繰り返しになりますが、新たに建設予定の複合施設、こちらをどのようなものにしていくのかということについて、常に念頭に置いて検討を進めたいというのが私共の考えでございます。

垣内会長 ありがとうございます。佐藤委員、このご回答についてさらに何かコメントがあればお願いします。そしてその後、菅野委員、お願いいたします。

佐藤委員 ご説明いただきありがとうございます。そうすると、計画が何を軸として

いくのかから議論していくことになると思いますが、これが欠けている、必要であるという視点で、すでに提示されているものとしては、市民協働であったり、前回、連携がキーワードとして出てきましたが、市内にある様々な活動を繋いでいく、様々な領域と関係を作っていくような連携の機能が非常に重要になってくるのかと思います。また、計画の推進にあたって、その進捗はどのように確認していくのかも1つ軸になってくるのではないのでしょうか。さらに、それを誰がやっていくのか。コーディネートや連携を行う主体が必要なのではないか、という課題が既に、『強み・個性』と『課題』を踏まえた方向性」では③のところに書いてありますが、こうした部分を上手く実現するような活動や体制が軸として非常に重要だと思います。

さらに言えば、先ほど複合施設の話もありましたが、この計画の期間、5年経った段階ではまだ施設が出来ていないという状況です。ここで課題とされていることが、複合施設の議論でも課題とされていることと重なると思います。この計画で施策を打つことが複合施設の活動や体制づくりに繋がっていくということも、想定できるのではないのでしょうか。『課題』を踏まえた方向性」のところに施設の話が書いてあることは、その連続性を意識されているのだらうと思いました。

それから、調査の結果を見ていく中で、例えば「(2) 課題」の①のアクセス改善に紐づいて、「鑑賞」と「活動」という言葉が並んでいますが、「活動」は1つ軸になってくると思います。というのは、例えば調査結果では活動に参加している人（全体の活動率）は20%という数字が出ていますが、一緒に活動していく人や場と結びつくきっかけがあれば、より活動が増えていく可能性も調査結果では示唆されていて、そうした環境を整備することは、広い意味で連携の話につながるのかもしれない。

④の活動の場の不足という課題も、新しい場を作るということだけではなく、市内にある様々な場所を繋げば解決することもあるのではないかと思います。コーディネートする対象が人や活動だけではなく、場所も想定として入ってくるといいのではないのでしょうか。ヒアリングの意見では、かなり具体的な課題が出てきていますが、すでに活動が多いからこその特長だと思います。それらの課題と場を上手く繋ぐというのもやりかたとしては想定し得るのかなと思いました。以上です。

垣内会長
菅野委員

ありがとうございました。それでは菅野委員、お願いいたします。

実は佐藤委員と重なるところが大変に多い意見となります。まず、第1回の結構ランダムな議論を、今回5つの項目に非常に見事にまとめていただいて、素晴らしいと思いました。ただ、やはり計画という用語ですと、行動計画という意味に近い印象で、実際に仙台市としてどういったことをやってい

くかという具体的な目標設定というような形になっていくと思われま。やはり先ほど、佐藤委員がおっしゃったように、文化振興条例であるとか、そういったものの位置付けがどのようになるのかというところが若干分かりにくいという中で、具体的な計画がこうやって進められていくという、少し座り心地が悪いような部分があるのではないかなと個人的には感じております。

それともう1つ、5年というのは、実際に文化芸術で考えた場合、今、色々なところで文化戦略が推進されていますが、そういった行動計画的なところを考えても、やはり5年は少し短いかもしれない。一般的にはだいたい10年計画で策定されている場合が多いかと思ひます。また、この行動計画という具体案となった場合、5年で目標をもってどれだけの結果が出せるかということになるのかと思うのです。そういったところにおいて制度設計と行動計画の位置付けの部分について私自身、きちんと理解できていないのかもしれないと思ひています。

それから市民の意識調査、これは非常に大切な調査であり、データであるかと思うのですが、全体的に気づいたのはこの行動計画では多様な文化芸術活動となっているのですが、拝見しているとどうしても舞台芸術をされていらっしゃる団体の方が多いということがあって、視覚芸術であるとか、デザイン、建築といった分野に関しては、余り言及されていないような印象を受けました。具体的な計画の方にはそれを含めての基本理念、目指す姿が想定されているかと思うのですが、そういったアンケートや調査の偏りが若干見られるのではないかと少し感じました。私は視覚芸術に関心が高いのですが、仙台市内のアートギャラリーであるとか、音楽、全ての芸術の面において市内のマッピングであるとか、経済的な側面との関係についても留意して、計画を作っていく、基本理念を考えていく必要があると思ひます。従って、やはり全体的な芸術分野のバランスという点を少しお考えいただければと思ひます。

垣内会長

ありがとうございました。全体的なバランスは重要ですね。文化にも、食文化や生活文化など色々なものがあるかと思ひますが、どこまでどのように包含するのかなかなか難しいところがあるかと思ひます。ただ、仙台市ではたくさんの施策をこれまでも、そして今もなされていますので、それぞれのセクションでいろいろな情報を把握して、それがきちんとここにフィードバックされているのではないかと思ひますが、今の菅野委員のご質問、コメントに対して何か事務局の方から追加で補足はございますか。

**文化振興
課長**

今回ヒアリング調査の結果について、資料2の方でお示しをしておりましたが、ヒアリング調査につきましては、今後も必要に応じて実施をしま

りたいと考えております。また、全ての文化芸術関係者へのヒアリングというのは現実的には難しいというところがございますので、今後文化芸術活動に携わる視覚芸術の関係の方々も含めまして、アンケート調査という形で実施を予定してございます。アンケートの対象者につきましては文化芸術のジャンルに偏りなく、幅広くお答えをできるようなアンケートにしていきたいと思いますと考えておりました。

文化観光局長 先ほどの菅野委員の話で条例という話でしたが、仙台市は条例の制定ではなく、この基本計画の策定というのをまず今回行おうとしておりましたので、本日の資料の最後にありますような基本理念ですとか目指す姿、こういったことについては、我々の希望としては、しっかりと議論していただいて、きちんと作っていきたいと思っておりました。

垣内会長 ありがとうございます。条例にしても、基本計画にしても行政のツールですので、条例でやった方がいいのか、あるいはより柔軟性が高く、機動力をもった基本計画でやった方がいいのか、ということはそれぞれの自治体が判断されることかと思えます。

仙台市では今回初めて、市が市民の方に対して、今まで色々な施策をされてきたところ、どういう方向性で何をやろうとしているのか、キーワードも含めてお示しするということですので、条例ほど強い形ではありませんが、基本的な方向性を示すものとして、基本計画を作られようとしていて、今、私たちがここにいると理解しているところです。条例をつくることにももちろん大きなメリットがありますが、条例を作れば全てが上手くいくわけではないということがあります。いかに実効性を高めて上手くいく仕組みを作っていくかというところも問われているかと思えます。計画という言葉自体も色々な形で非常に幅広く使われている、フォアキャスティングという将来を見越して作っていくものもあるし、ちょっと長めの計画期間をとってバックキャスティングというような考え方もあります。それはそれぞれの自治体のニーズに合わせて作っていただくのがいいかと思えます。今回、私たちがリクエストされているのは理念とか方向性を示したものであって、5年という期間を区切ってはいますけれども、5年後に全く白紙になって次にいくというわけではない。今回の計画を引き継いでいくこととなるでしょう。つまり、今まで色々な施策として行ってきたものを言語化してここで基本計画をつくり、5年間やって後は、それをまた軌道修正しながら使っていくというようなことに実際はなっていくのではないかと思われまます。なので、ある意味ここで色々な調査を、ヒアリングもそうですし、アンケート調査もされたということで、そういったものを上手く、エッセンスを抽出しながら方向性を固めてお示しするというところに非常に大きな意味があるのではないかと思います。

いますので、その辺り、具体的なところについてもまたご意見を賜ればと思います。

それでは山田委員、よろしくお願いいたします。

山田委員

ご苦勞様でございます。まだ2回目ですので、具体的なことは申し上げられないかなと思いますが、佐藤委員からご発言のあった通り、前回もこの会議自体が、やはり仙台市の魅力を再発見して、それから我々がそれを認識し、どのように活用していくかということが非常に大事な事かなと思っていました。棚卸ししながら、これをいかにつなげていくかということだと思います。この前もお話したのですが、連携というのはすごく大事で、何かと何かを繋げて足すのではなく掛け算をして、二次効果、三次効果といったものを、しっかり生み出す力というのが必要なのではないかと思います。それぞれ単体で行うのではなくて、連携をしていく、繋げていくことで、こういった最終的な考え方というか、まちづくりに繋がっているんだろうと思っています。ですから、この基本計画を作る際には当然課題解決もしながらですが、本質的な価値をしっかりと見極めることがとても大事で、今回ご用意いただいた資料はあらゆる物事を網羅的にここに記載していただいているんですが、その中から主体的に解決できるような、もしくは魅力を発信できるようなプランを策定し、さらに実効性を持たせていく、そういったことがとても大事だと思っています。最終的には基本理念、キーワードということでお話がありましたが、それはとても大事な話なのですが、よりそれをしっかりと実効性のあるものにしていく方のプランがとても大事だと個人的には思っています。ですので、できれば仕掛けであったり、連携、何かをつなげていく仕掛けづくり、コーディネート力もそうですけれど、そこにおいて、想像力とか、恐らくはデザイン力といったものがたぶん試されるんだろう、そこから情報発信に繋がるのではないかと思います。

先ほどまちづくりと言いましたけれど、おそらくここ数年で仙台市内の市役所を含めて、建物、建築物が相当リニューアルされ、まちの顔が変わりそうです。それだけで魅力が倍増するというわけではないのですが、そんな形でおそらく進化を続けている最中なんですね。ですからそういった意味ではソフト面も大事なのですが、ハード面もしっかりとらえながら、そことうまく協働していくことが非常に大事だと思います。その1つは音楽ホールだと思います。これから市役所もそうですが、県民会館であったり電力ホールであったり、ここ何年かで全部変わりますよね。あるいはそういった中でどのように仙台の魅力を発信していけるのかが非常に大事なんだろうと思います。ですので、資料4の「強みと個性、課題を踏まえた方向性」、これをしっかりと整理しながら、今後の計画に反映させるのが非常に大事だと思って

います。付加価値をどう生み出すかという仕組みづくりをしっかりと、今後の計画の中に入れていければ良いのではないかと思います。中身として具体的なプランを作り、実効性のある、かつしっかりやっていける形が必要ではないでしょうかと思います。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。それでは吉田副会長、挙手されましたのでそれと五十嵐委員、あともう少し時間があると聞いております。最後にもし、もう一言コメントがあれば、吉田副会長の後にお問い合わせできますでしょうか。

吉田副会長 皆さんの意見と重なるところがございます。軸や方向性といったところについてです。仙台市の基本計画を拝見しますと、市長部局と教育委員会で、数多くの文化的関係の事業、施策を今まで展開されています。またアンケート調査の中で、文化芸術を鑑賞することや文化芸術活動を行うことが非常に大切である、というたくさんのお返事がございました。ここに何か1つの糸口がありそうだと思います。そうすると、これから出される基本計画の策定も市民のための基本計画であるべきかと。ですから、軸はあくまでも市民においた方がよいと思います。ではその「大切」であるという、その「大切」の意味は一体何なのかというのは結構難しい。私も具体的に申し上げることができませんけれども、目に見えない力なんだけれども、大切だと誰もが思っている。簡単に言えば、それは感性であったり情操であったり、創造性であったりというような言葉でくくっていくことができると思います。こういったことが基本理念の中に反映されていくことかと思っています。

さらに、この今の軸があるからこそ、新しい展開を目指した計画というものを立てなければならない。それもアンケート結果の中に出ています。どうという言葉かという、機会と時間という言葉でした。活動する時も機会と時間があればやりますよ、鑑賞も機会と時間があればやりますよ、という結果が出ています。ではその機会って何なんだろうということを分析していくことが計画策定の一つのきっかけになるのかなと思います。簡単に言えば、時間、内容、それから施設、文化遺産的なものもあります。そうしたいくつかのものがしっかりと、機能し合って初めてそれが市民の見える場面に出てくると、市民はそれを、機会と思って活用して、芸術文化活動がなされるのかなと思っています。それがやはりこの基本計画の大元になるのかなと思います。

まちづくりは手段だと思います。ここにたくさん躍動するまち、育まれるまち、親しめるまち、若者のチャレンジを応援するまち、礎となるまち、さらには、計画策定の目的の最後の部分と、文末ですけれども、文化芸術が持つ多様な力をまちづくりに活かすとあります。まちづくりに活かすことが目的ではなくて、まちづくりということが手段だということをもって、計画を

今後構成していければ良いのかなと思っている次第です。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。そろそろお時間かと思いますので、五十嵐委員、何か最後にコメントございませんでしょうか。

五十嵐委員 (複合施設の)整備予定地は国際センター駅の隣のところですよね。このあたりは美術館や博物館、大学もあり、もともと文化的な地域がさらに強化されると思います。先ほどのネットワークの話もありましたが、これらのどれか1つ行くという形ではなくて、美術館に行っても劇場にも来るという、相互の乗り入れを誘発してほしいと思っています。一方で、あいちトリエンナーレの際の話ですが、名古屋市栄には、とても巨大な芸術文化センターがあるのですが、美術館に行く人は美術館に入って行って、あまり下の演劇とか、真ん中のフロアにあるコンサートホールに行かない。逆にコンサートに行く人は美術館に行かない。このようにせっかく同じ場所にあるのに、意外とクロスできないということがあって、それをどうやったらクロスできるかということも、目的にありました。地の利というか、この場所はすごくポテンシャルを持っていると思いますが、ポテンシャルだけでは利用されないと思うので、どうやったら相互に、人の動きやプログラムが関わり合っていくのかについては、今後の展開、どう考えていくのが重要かなと思いました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。それでは笠原委員お願いいたします。

笠原委員 今まで各委員の皆さんの話を聞いておまして、まず、この基本計画の策定の軸を考えると、この「まちづくりに活かす」、そこはやはり重要なポイントなんだろうと思います。ただ、まちづくりに活かすというのは、先ほどの吉田副会長さんがおっしゃったように、ここは手段で、市民のためというか、基本的には仙台に住んでいる人が元気になるようにとか、そのためのまちづくりなのだと思います。あるいは文化観光側の部署の方たちがここにいますので、その側面からすると、仙台に来た人が元気になって帰ってもらおうというような文化芸術もあるのかなと。つまり、何かそういうキーワードを作りながらのまちづくりというところを入れ込んでいくと、より良いのかなという気がしています。

今日おまとめいただいたこの資料4の基本計画の方向性について、私は基本的には、大変しっかりよく方向性が出ている内容だと拝見させていただきました。ただ、この資料の基本ベースは、文化観光の部署の方が作成したものなんだろうなという拝読の感想を持っております。というのは私自身が、文化財ベースのところ長くずっといたもので、その視点からすると若干違和感がある言葉使いがありましたので、それは非常に細かいことなのですが、まずはその気づいたところに少し触れさせていただきたいと思います。

3 ページの下の「強み・個性を活かした方向性（案）」の2つ目の点のところ、「本市の都市個性ともなる伝統芸能や文化財、様々な災禍を踏まえた経験など、過去からの多様な蓄積を適切に保存し～」というところですが、文化財を適切に保存する、それから伝統芸能を適切に保存するということなのですが、例えば一旦できた文化財は不変のものではないんですね。時代に応じて、あるいは担っている人に応じて、変えて、そして継承していくべきものと私は考えております。そうした意味でいうと、適切に保存していくのですが、保存し、その価値への理解を深め、新たな文化活動へと昇華し、未来に継承し発展させるという、少し新しい意味を加えても良いですよというところを付け加えていただくと、より良い表現なのかなと思います。それからもう一つは、この文章の中でも伝統芸能という言葉を使っていますが、その後ろに文化財という言葉があるので、この伝統芸能は何を指しているかという、能や歌舞伎を指していると、文化財関係者としては読み取れるわけです。伝統芸能は、一般的な意味は先ほど言いましたように、歌舞伎や能など、担っている地域を持たない、中央で行っている専門の芸術家が行う芸術活動を指します。ですので、仙台市で行っている芸能については、伝統芸能という言葉を使うのであれば、地域伝統芸能という、「地域」を入れていただくと、よりふさわしい。あるいは、文化財の言葉で言うとそれは民俗芸能。あるいは、郷土芸能という言葉になるわけですがけれども、文化観光の言葉で言うと、地域伝統芸能という言葉になるかと思います。この方向性そのものは文化財がそんなに前面に出る必要はないので、文化財の用語を使う必要も、必ずしもないとは思いますが。ただ、伝統芸能というのは別の意味がどうしてもありますので、そこは少しご検討いただければと思います。

それから、地域伝統芸能については、もともと必要とされていた素地というのがあったわけで、その素地というのが、適切に保存するためには、大切な要素になると思うのですね。その素地というのは基本的には何かといいますと、それは全ての芸能には、いつの季節に行うかという季節があったんですよね。例えば、仙台市独特の芸能で田植え踊りや、獅子踊りがありますけれども、田植え踊りは正月でその年の豊作を祈るという、予祝芸能、あらかじめ豊作を祝うという形で行われておりましたし、獅子踊りは盆の時、8月に、もともと7月ですがけれども、その時には先祖を獅子踊りで供養するという形で行われていました。今はそういう田植え踊りも獅子踊りも季節を喪失してしまっておりますけれども、そうした季節があったところを踏まえて、この基本計画の中にもうまく盛り込んでいくといいのかなと思います。また、一番有名な田神楽についても当然季節があるわけで、これは春祭りと秋祭りですよ。春祭りというのは、米づくりが活発になる前に、神様に豊

作を祈るのが春祭り。秋祭りは米の収穫を感謝するというそういう季節の中で行われていますので。そういうところは踏まえた形で、計画に盛り込んでいけるとよいと思います。

前回も少しお話しましたが、仙台市の文化芸術の特徴として、文化財の数が多いことに加えて、質も非常に高いという話をさせていただいたかなと思います。その上で、質の高さ、例えば、サッカーの例で言うとわかりやすいかなと思うのですが、それは個人の技術が高い状態に仙台市の文化芸術があるというのが特徴なのかなと思います。それがさらに、例えば、より広い舞台に出ていくためにはやはりその個人の高い技術を活かすチーム戦術、そこがどうしても必要になってくるのだらうと思います。この基本計画の中では、そのチーム戦術を何にするのか、そこが具体的なキーワードに結びついてくることになるのかなと思いますけれども、その辺は後で議論がもう少し出てくるのかなと思いますので、一旦以上です。

垣内会長

ありがとうございます。いろいろな議論があるかと思いますが、お二人の手が上がりました。では、柴崎委員、庄司委員の順にお願いしたいと思います。

柴崎委員

前回の懇話会からなるべく行けるだけ様々な文化団体の会合、それから仙台市さんが行っていたヒアリングなどにお邪魔してきました。私は、そこで事例や聞いてきたことも含めて発言したいと思います。まず1つめに、事務局の皆さんにお礼を申したいのです。先ほど吉田副会長が言っていたような、アンケートから見えてくる「機会と時間」ということ、市民のニーズということにおいて、私たち、特に障害のある人たちを含み、社会的に生きにくさを抱える人たちの支援をしているNPOとアート団体に対し、今回、推進計画に関するヒアリングの機会を1回、それから複合施設に関わる場所でもヒアリングを1回、多様な団体を集めて話をきいていただきました。その内容はもう話が終わらないほどで、この資料にも非常に多くの記録を残していただいています。特に東日本大震災以降、生きにくさを抱える人たちと文化芸術を通じて、よりよく生きる、元気に生きる、生活を充実させていくという、文化の力を通じた支援をしている団体の声を、今回拾っていただいたこと、それからそのことを計画の中に入れていただけるということに対して、お礼をお伝えしたいと思います。そのうえで、後ほどのキーワード出しというところにも関わってくるかと思うのですが、この私たちの現在の活動、小さな小さなNPOばかりが今やっている活動ではあるのですが、これをやはり文化政策に反映していくことが大切です。一見こうした活動は、単に福祉の分野の活動であるというように見られがちなんですが、ここを超えてきたのが仙台市の行政の皆さんとの連携の力だと思っています。それは

「市民協働」という視点かもしれません。現在、文化振興課の皆さん以外にも、障害企画課、生涯学習課、特別支援教育課などさまざまな課の皆さんが集まって、こうした活動の基盤、環境を作ることについて、真摯に議論をしていただいています。こうした背景に立って2つめに伝えたいことは、この環境を支えてきた施設には、生涯学習課が管轄しているせんだいメディアテークをはじめとする生涯学習施設、社会教育施設の存在がしっかりあるということです。文化芸術は、単に何か物を作るということだけではなく、人々が自らやりたいと願うこと、それを続けるということに対して環境を作っていくことが大切です。例えば「アートノード事業」、アーカイブの事業、まちづくりやまちの発見に関わる写真やメディアを通じた対話、ここ最近では「てつがくカフェ」、あるいは「ドートクのじかん」というものに代表されるような、一見、表現として表出されていないけれども、人々がよりよく生きることを支えてきた文化があると思います。肉体的にも身体的にもより良く生きるというために、アーティストあるいはアートの場としてのメディアテークのような豊かな空間が提供しているもの、市民を支えてきたということがたくさんあると思っています。そして、ここに障害のある人たちも、大勢参画しています。現在の計画の議論では、ここが少し言葉や事業のキーワードとして、全体を見た時に不足しているのではないかという実感を持っています。先ほど事務局から、ヒアリングではなく、アンケートを網羅的に様々団体にしますというお話がありましたが、菅野委員も言うように、視覚芸術あるいは建築、写真というような領域の方たちにも対象を拡げるべきと思います。アーティストというのは個々、独立した存在として活動する方なので協会とか団体に所属していない場合も多いのですが、仙台市の中には社会的に意義のある活動をしている芸術家、デザイナーたちというのはたくさんいますので、ここはアンケートということではなく、彼らの言葉をしっかり聞くというようなヒアリングの場をもう一度持つ必要があるのではないかと考えています。

別の見方をすれば、市民のアンケートを見ていると、その中のニーズに美術への期待とか、美術を通じた楽しさとか場づくりの必要性ということが、かなり上位にランキングしています。市民のニーズとしてそうしたことの必要性がしっかりとアンケートに書かれているので、これはヒアリングの対象にすべきであり、こうした活動をもう1回言葉としてもしっかり計画の中に入れていく方がバランスがとれるのかなと考えています。

最後3つめに、社会包接の分野の立場からもう1点。基本計画の先行事例についていくつかの都市のものを見ていました。外国人の方たちの存在、つまりこの仙台で働く人、学ぶ人としての外国人の方たちがたくさんおられ、

果たしている役割が大きい割に、その文言がおそらく出てこなかったと気付きました。国籍や年齢とか障害にかかわらずというような言い方をしますが、そうした「国籍」がちがいで、また日本語を母語としない人たちに向けたメッセージや視点というのは計画の中で、言葉として脱落しているように見受けられたので、ここでの発言をもって、そうした要素も資料の中にしっかり盛り込んでいけるようになると良いのではないかと感じています。少し長くなりましたが、一旦発言を終わりにします。

垣内会長

ありがとうございます。それでは庄司委員お願いいたします。

庄司委員

庄司でございます。私はクラシック音楽業界にいる立場としてのご意見という形でお話しさせていただきたいと思っております。現在、(参考2において)仙台市の文化芸術の取組みということで1~8と資料の方にも全て掲げていただいて、その中でクラシック音楽に特化したものというのは、決して割合的には少なくない状況であることと、また数年間のうちに、新しいホールが立ち上がるということを考えてときに、この10数年の間にひとつ、我々は大きな過渡期を迎えるのかなと感じております。また、仙台フィルも今年50周年という時を迎えて、これまでに取り組んできたその歴史を振り返りつつ、新たにそのメンバーを迎えている状況になっております。また、3年ごとに開催される仙台国際音楽コンクールではその都度、世界に羽ばたく演奏家を輩出しているというような状況で、仙台をアーティストのキャリアの発信地としてスタートさせ、そのことによって仙台に繋がりを持つアーティストというものが増えています。仙台市に住んでいる人がアートに触れる、見る、演じるなど、様々な活動を行うことはもちろん前提なのですが、様々な芸術のまちである、まちづくりを行うという点においては、アートをする担い手、ファシリテーターやアドミニストレーターといったような人材がここで何かをしようと思ひ、仙台を選んで、このまちに戻ってくること、そして、視野を広げて外から国際的にも仙台というまちが芸術のまちになっていくんだよというときに戻ってくる場所、帰ってくる場所をつくる必要かなと思っておりました。今の「課題を踏まえた方向性」の中に、次代の担い手の育成と、またその興味関心を得られる機会の充実を図るとありますけれども、さらにそこに対して、もう一步踏み込んで、アートに取り組む人たちが活力を持って活動できるということも、計画の中に組み込んでいただくと、今後もアートの担い手たちはこのまちに集まってくる。そうすることによってさらにアートに触れる機会ですとか、若い子どもたちがそれを見る機会が充実し、あるいは将来的に生涯を通じて芸術に触れるという方に対して、アクセスがしやすくなる、情報発信をする人が増えるということになってくるのではないかなと感じました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。他に追加でコメント、その他ございませんでしょうか。私の方からもコメントさせていただきたいと思いますが、そろそろ時間ですので、もしよろしければ、今、コメントをお願いいたします。では吉田副会長よろしくをお願いいたします。

吉田副会長 すみません、2回目の意見を述べさせていただきます。この基本計画の目指す姿について、P 5ですが、この表記の内容を見ますと、やや並列的に扱われているという印象を受けました。この次までに、骨子案が出てくるわけですので、その建て付けにややこのまま行くと不安を感じています。この内容に決して軽重、重い軽いはないと思いますが、少々順序性というのを考えてもいいのかと思いました。(1) から (5) までありますけれども、やはりこの先ほどから出てます基軸は (3) と思います。

あらゆる人に参加機会が開かれ、文化芸術に親しめるまちというものがメインになっていて、そしてそれを構成するものとして、(2) や (4) や (5) があって、そして結果的に、(1) が出てくるといような構造化というものを少し意識されると、今後の骨子を作るときに、ある程度見通せると思ひまして、もし参考になればとお話申し上げました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。他はございませんでしょうか。それでは佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員 資料4の「(2) 課題」は、仙台市の文化や芸術活動にまつわる政策課題を明示するところなのだと思います。そうすると、これも実施に移ってからの話になるのですが、それを誰が改善するのかという課題が出てきます。誰もやっていないから市がまず率先してやるべきことなのか、すでに活動に携わっている人たちの環境を改善した方がいいのかというところの優先順位というか、何から取り組むべきかみたいなのがもう少し必要なのではないのかというのが1点です。今、吉田副会長のお話を伺って思ったことです。

もう1点はこの言葉の選び方で本当にいいのかという点です。「興味関心から実際の鑑賞活動につなげる方策、アクセス改善」という言葉がありますが、これまでの議論で重要だと思ったのはこのアクセス改善というところでした。アクセス改善と言った時、今までどういう人たちを活動の対象として想定していたのかをきちんと問い直すという、それくらいの幅のある書きぶりが必要なのだと思います。今、色々な意見をいただいている、その言葉がある程度整理してここに入れているのだと思いますが、先ほどまだヒアリングが足りないというような話が出てきて、そこに隠されている本当の課題が何なのかというところをしっかりと見えるような形で、ここを書いていく必要があるのかなと思いました。

垣内会長 ありがとうございます。実は今のご意見と少し重なる部分で私もコメント

したいと思います。この基本計画では一般的に仙台市が抱えている課題をここに抽出して、これを何らかの形で解決してどういう方向に持っていこうかということを示すというところで終わり、その先は、行政ができること、マーケットで解決してもらうことなど色々ありますが、どれがベストなのかというのは次の段階で考えることではないかと思うのですね。だからここでやることは、仙台市が今直面している課題、そしてそれに対してどんな方向性に向かった方がいいのかということは明示する。そして、その先の具体的なところについてはこの基本計画をベースにまたそれぞれお考えいただくものではないかと理解していたのですが、まずその確認をちょっと聞かせていただきたいと思います。

文化観光局長 今、垣内会長からお話があった通り、我々としてはこの計画で網羅するのは難しいと思っておりますので、会長がおっしゃったようなまずは理念のところを中心にしっかり検討していただきたいと考えているところでございました。

垣内会長 ありがとうございます。文章の書き方や、文言についても色々なご意見を頂戴したところです。私の方からも3点ほど申し上げたい点があります。

まず1点。「まち」をひらがなで書くと、いわゆる漢字の「街」とは随分違うイメージがあるというのが一般的な考え方だと思います。また、市民とは何かというと、市に住んでいる人だけではないこともあります。そこで学ぶ方、そこで働く方、そこに訪れる方、もちろん非日常的に観光でいらっしゃるという方も、場合によっては含められる。非常に幅広いものでしょう。交流人口、関係人口とかいう言葉もありますが、どのあたりを想定するかというのはそれぞれの政策によってもそれから課題によってもまた違ってくるものだろうと思います。どこか特定のこの人たちにというのはなかなかここでは難しいかと思いますが、基本的にはかなり幅のある概念で市民、そこに住んでいる方々、あるいは地域の方々が中心なだけでも、その周辺の方々、関係する方々、交流する方々も場合によっては広く含められる。そういう形のイメージかなと理解しました。このように「まち」と書くとよりイメージがはっきりしやすい、仙台市のイメージがはっきりしやすいということで書かれたのだと思います。都市計画の分野では文化は人をつくる、人はまちをつくると言って、最終的には人が寄って集まっているコミュニティみたいなものをまちと呼んでいることもあります。私個人としては、こうした打ち出しも、市民の方にはっきりとしたイメージを伝えやすいのではないかと思います。もし何かいい言葉とか、追記すべきようなことがあれば、具体的に事務局まで教えていただければ、事務局は後で作業がしやすくなると思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

2点目は先ほども少しお話しましたが、こういう課題があり、こういうことやらないといけないという方向性が見えたとしても、それをすべて行政が、直接やる必要は全くないというところを強調したいと思います。行政もコーディネーターやプレーヤーの1人であって、大事なプレーヤーなのですが、特に文化芸術分野は色々な方々が色々な能力というか、キャパシティーで活動することによって、相乗効果が生まれて、それこそがいいという考え方があります。行政でできること、行政がしなければならないことは、例えば規制緩和ですね。規制を掛けるのは行政なので、緩和するのも行政ですから、規制緩和は行政がやらなければいけないし、場合によると行政的なルールを作るといこともやらなきゃいけないでしょう。望ましいこととしては社会的に顕彰する、認知するというようなところもあるかもしれません。でもやはり、私が最近強く思うのは直接しっかり関わらないといけない部分があるということです。それはマーケットでできないことです。例えば複合施設、これを民間の企業さんが作ってくだされば一番良いのですが、それはほぼない。これを維持するためであってもその公益性から、チケット代をものすごく高く設定することはできませんし、むしろそういうことをしない方が良い施設だと思うのです。優れた芸術を色々な人たち、色々な条件を持つ人たちにアクセスしてもらうという観点から考えれば、やはり複合施設の整備、それからマネジメントは行政が責任を持ってやらなければならないのではないかなと思います。そのあたりの行政の関わり方や立ち位置についても、どのように書き込むかは別として、しっかり記載する必要があると思います。行政がコーディネーターとして、色々な機能で関わっていくところ、全てを行政がやるわけでもないし、全てを民間に任せるわけでもないというところを書いていただくといいなと思っています。もちろん連携はするのですけれども。

3点目は、他の委員も仰ってましたが、ヒアリングなど、ご意見を頂戴するというのは、大変かと思いますが少しでもできるだけ行っていただくと思います。そうして関係のある方々を巻き込んで、関心を持ってもらうということは、この基本計画が立ち上がって、5年間、何らかの形で進んでいく中で、計画を支えてくれる、仲間を作るようなものですので、今からでも色々な方々にお声をかけて、色々な意見を聞いて、当事者意識を持っていただくということも非常に重要なことだと思います。その辺りもぜひ、ご検討いただければと思います。私からは以上3点申し上げました。

もう少し時間があるようですけれども何か補足などありますでしょうか。では山田委員よろしくお願いたします。

山田委員

すみません、先程のP5で、目指す姿と基本理念とあるのですけれども、こ

ちら(1)から(5)になるのですが、先ほど、吉田委員から構造化をしてはどうかという話があったのですが、これは5つともこの基本理念に反映させるというか、目指す姿ということなのでしょうか。僕はこの中から、何かしら1つ選ぶと思っていたのですけれども。要するに重なっているところがかなりあるので。ではなくて5つとも目指す姿として盛り込むのかという確認をさせていただければと思います。

**文化振興
課長**

このお示しをしました目指す姿の5つについては全て計画の方に盛り込むということで考えております。

垣内会長

この5つの目指す姿はすべて重なる部分が一定程度あります。ただ、このように書いていくと、そこを重点的に行うという視点がより明確化されると思います。人に関する部分だけでも相当あるわけですが、そこに若者、あるいはチャレンジというフォーカスが入っている。そういう目指す姿を1つクリアにして出すという、そうした趣旨があると思います。それから構造化すべきというご意見もありましたけれども、その辺りについてももし何かこうしたらいいのではというようなことがあれば、この場で、あるいは後でも結構ですけど、事務局の方にお考えをお伝えいただければ今後作業をしやすくなるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次の基本理念の方に入っていきたいと思っております。もし先ほどの議論の中で言い忘れたことなどありましたら、こちらでまた触れていただいても結構でございます。意見交換の2点目、基本理念にふさわしいキーワード、様々なキーワード例を事務局からもご用意いただいておりますが、何か付け加えるべきもの、あるいはここはぜひ、などという、そういうご意見があればぜひ、お教えいただければと思います。発言順の指定はございませんので、挙手にてご発言をお願いできたらと思います。どなたかございますでしょうか。連携という言葉も出ていたかと思っておりますが、ここで足りていない部分、あるいはこの部分はぜひ、というようなところ。私は東京から来ているので、やはり「杜の都」はいいなと思っておりますけれど、皆さん、どう思われますでしょうか。それでは庄司委員、お願いいたします。

庄司委員

キーワード例を挙げていただきましてありがとうございます。1点、皆様のご意見を色々伺いたいなと感じたのが、私どもが音楽を通じて、震災後に色々な活動をしていく中で、文化芸術の力という言葉に関して、力をカタカナで書かれていたりということもあったと思うのですが、これに関してはそれをやっている人だけが思っていることじゃないかとかいろいろな議論を呼びまして、私たちも考えさせられることがあったなという言葉でした。もちろん、おっしゃる通り、杜の都であるとか連携であるとかの言葉の話はとても良いと思っておりましたのと、先ほど、柴崎さんがおっしゃっていたんで

すけれども、文化芸術の基本のところ「よりよく生きる」ということに関してこれは全人類にとって必要なところで、それによって文化芸術があり文化芸術を求めるといふことがあるので、この言葉に関して私の方では、もしキーワードの中に入れていただけたら嬉しいなと考えております。

垣内会長 ありがとうございます。他にございますか。菅野委員よろしく願いいたします。

菅野委員 今、庄司委員がおっしゃって、私も実は同じことを考えておまして、今、文化芸術をどのように捉えていくかということ、そもそも文化芸術がどのような力を持っているかということかと思ひます。今、世界的にはウェルビーイングと文化芸術を繋げたような動向がありまして、それを日本語に置き換えた場合、どうなるのかなと考えていたのですが、今、正に庄司委員がおっしゃっていた、「よりよく生きる」ということがもしかしたら、ウェルビーイングの日本語の意味なのかなと考えておりました。この言葉をキーワードに入れていただければと思ひます。

垣内会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

吉田副会長 私の誤解だったら、申し訳ありません。独り言だと思ひて聞いてください。鶏が先か卵が先かの論議です。理念があつての姿なのか、姿があつての理念なのかということで、私の気持ちとしてはできれば理念が先にあつて、そしてそのための姿はこうあるべきだといふような順序の方が収まりがつくのかなと思ひているのです。ですから、今ここにこうキーワードがあるところなのですけど、これは市民の姿ですね。こうした市民が仙台市にたくさんいるよ。それから、先ほど、市民の概念がいろいろあると申し上げたけれども、こんなことをやっていくよ。なぜか、そこにはこういう仙台市の芸術文化に関する姿があるから。といふような順序の方が収まりがつくのかなといふ気持ちを持っております。以上です。

垣内会長 ありがとうございました。計画自体はおそらく基本理念が最初に来て、その後目指す姿が来てといふ形になると思ひます。そのためのイントロダクションなので、少し強いメッセージが伝わるような言葉がいいかなと事務局では考えたのではないかと思ひれます。他では使わない言葉で差別化を図りたいのか、あるいはそうではなくて、一般的に使われている、あるいは今、結構注目されている言葉を使うのか、色々あるかと思ひますけれども、委員の先生方のお考えをぜひお聞かせいただきたいと思ひております。笠原委員よろしく願いいたします。

笠原委員 これは本当に私の個人的な感想と思ひて聞いていただければいいかと思ひますけれども、私自身が考えているところで文化芸術はまず拠点になる建物があつて、これからまた素晴らしい建物を市の方で計画しているといふこ

とがありますので、その建物、そして建物と建物をつなぐ部分、現実的には道路や交通手段になるわけだろうと思うのですけれども、そこを今まで仙台市の方で使ってきた言葉の中で考えていくと、ここにもあります、杜の都の「杜」というのはどうだろうかと思います。この杜の中で、一本一本の木が建物といった文化芸術に関係する建物を象徴している。そして、大きな杜全体が建物プラスその建物をつなぐ道路、例えば定禅寺通りとか、いろいろお祭りをする広場、それから最近では仙台城の表門を復元するという話の中で、大手門中央通りから仙台駅までの通りを大手門通りと呼んだらどうだろうかというご意見等もあるので、そういったところでいくと、一つ一つの木、そして全体を表す杜、そういったところを「杜」という言葉で表現するというのも一つの方法なのかと思いました。ただ、杜の都というのは今までかなり使われてきている言葉ですので、それを「文化芸術の杜」、例えばそのような形、あるいはもう少し別の言葉を付けて、杜という言葉を考えるのも、本当に個人的な意見ですけれども、いいのかなと思っております。以上です。

垣内会長

ありがとうございます。仙台駅を降りたら目の前が並木通りでして、本当に大きな木がある。政令指定都市の中心部にこれだけの巨木があるというのはすごいなといつも思うものですから、私も杜というのはキーワードにふさわしく、強みと思いますが、基本理念を作るのには杜だけではなくて他にも色々なキーワードが必要かと思います。それでは佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員

先ほどから出ている、「よりよく生きる」はいいなと思いました。目指す姿で表現されているところが、何か作ったものを外に発信していたり、それによって人を惹きつけたりすることに軸があるように思えますが、もっと交流や双方向のものというところ、繋ぐとか連携という言葉が入ると良いと思いました。

もう一つ、この計画で理念を提示することが、仙台で文化や芸術活動に関わる人たちにどんな意味があるのかということを考えます。ヒアリングや調査を通じて、これほど現場の声が出てくるということは、これだけの人たちが、それぞれに文化が大事だ、芸術が大事だと思ってすでに活動しているという状況が仙台にはある。それに対して何を行政が課題と捉えて市民と手を携えてやっていくのかという、政策課題の軸をしっかりと提示していくことがまず一つ大事な事かなと思います。その上で、計画で理念を提示することは、それぞれの取り組みの意義を、それを感じていない人と共有するためにこれ（計画）を使ってもらえるかもしれない。そう考えたときに、高らかに文化の重要性や存在意義を、「よりよく生きる」という言葉や、様々

な背景があっても、一緒に、共に生きていくための1つの術（すべ）として文化があるのだと、しっかりと、それくらい大きな言葉で、基本理念をうたうのは重要なのではないかと思います。基本理念にゆだねることを全部書くのは事務局の皆さんがまた大変になってしまうのですが、少なくとも、この計画の背景として、コロナの影響や法制度、文化の領域が広がってきているという状況説明はあるでしょう。ただ、なぜそうなのかと考えていくと、そもそも文化は、人と人がともに生きていくための工夫として作られたものであって、ひいては、ひとりひとりがよりよく生きていくために生まれてきたものだからだと思います。それが他の分野と関わる中でも、その力が発見されていっている。文化が他の領域と連携できるという機能を書くことも大切なのですが、そもそも人が生きていく上で文化が支えになるものであるということをしかりと明示することは本当に必要なのではないかと思います。ひとりひとりがよりよく生きていくということもあるし、色々な人たちと一緒に生きていく、ともに生きていくために文化というのは人と人を繋いだり、さまざまな場面で生きることのベースになるのだということが入るといいのではないのでしょうか。今、コロナ禍を経た孤立の影響もあると思いますが、人と関わろうとした時に自分の思い通りにいかないことに対して、暴力に訴えかけるようなことが日々のニュースでも出てきています。そういう意味でも、改めて文化の意義をきちんと発信していくということが重要なことなのではないかとも感じています。すみません。長くなりました。

垣内会長 ありがとうございます。この基本理念のカッコ内は空欄になっているのですが、これは1センテンスがあって、そこにワンパラグラフくらいで説明がある、そういうイメージでよろしいでしょうか。たぶんその最終形をイメージするとより、色々なことが出てくるかと思いますが。

文化観光局長 私ども事務局の中で議論したときには、おっしゃられたようにあまり2つも3つも理念が並ぶよりは、基本理念は1つだと。ただその前か後かで文章で言っている事があって、実際にその文章を含めた全体として基本理念という形がいいのかなということを考えておりました。

垣内会長 行政的でよく使われる形かと思います。私も経験がありますが、最初にキーワードがあって、キーワードがいくつか入ったワンセンテンスがあって、それをちょっと説明すると、というようなことをおそらく基本理念では想定しているかと思いますが、考え方、その表現の仕方も含めて、さらにご意見を頂戴できればありがたいと思いますがいかがでしょうか。今の段階、「杜」とか、「繋ぐ」とか、「よりよく生きる」あたりが当確でしょうか。それでは吉田副会長、よろしく願いいたします。

吉田 今、垣内会長さんがおっしゃったように、やはり最初にワンセンテンスが

副会長 あって、そしてそれを補う文章という構成かと思います。そうしたときに、私なりの考え方、このキーワードを考えたことは、やはり市民の誰もが芸術文化の力というものを享受しながら、そして豊かな感性を持って、充実と活力と潤いのある生活を過ごせる仙台のまちというふうになればいいのかと。そのために、こうするというということが、次に文章化されていくのかと勝手に構想しました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。なかなか難しいところではありますね。かつて自治体の計画を調査したことがあります。計画は基本理念が最初にありますが、かつては、「賑わい」とか「潤い」とか「活力」とか「魅力」とか、あと「より良い」もありました。「よく生きる」みたいなところもありましたし、「活躍」とか、「豊かな」もありましたね。私が調べた時は「潤い」が多かったような記憶があります。潤いが足りない世の中だったのかもしれませんが。色々なキーワードをどう組み合わせるかというところで、個性を出すということもありうるかと思います。更に追加のご提案、あるいはこんなふうに結び合わせてみたらどうかという、ご意見をぜひ頂戴したいところでございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では大体ワンセンテンスにちょっとしたわかりやすい説明がつくという形で基本理念を作ってください、次回事務局案を見せていただく。それを見てまたいろいろ議論いただいて完成形を目指すことにしていきたいと思います。

最後になりますが、その他ということで、これから行われる予定のワークショップにつきまして事務局よりご説明があります。事務局、よろしくお願いいたします。

【(2) その他】

・事務局より資料5に基づき説明。

垣内会長 ありがとうございます。このワークショップの話題提供のスピーカーにもなっていたらっしゃる柴崎委員の方から何か補足でご説明などがあればぜひお願いいたします。

柴崎委員 まず貴重なワークショップの機会に、この分野の方々と一緒に意見を出していく機会を作っていただきましてありがとうございました。垣内会長がおっしゃっていたように、仲間を作る作業や、巻き込んでいくこと、あと当事者意識を持っていくということは大変重要で、まさに当事者、ご家族、支援団体が一緒にこの場を作っていくというような形で、計画をして参りました。さらに、今回は「対話の場」と併せて「あそびの場」があります。これは、障害のある児童や生徒、成人の方たちが、単独ではこうした場で、話が

しにくかったり、それを支援しているご家族や支援者は、例えばデイサービスとか移動支援みたいなことを利用しないと、こうした場にすら来られないということが日常的にあることで設定したものです。あそびの場を通じて、障害のある人たちや子どもたちが、この場にいる、その横でご家族や支援者、NPO 団体が様々な意見交換をするというようなことが実現できたら嬉しいです。さらに当初は、20～30 人で実施しようという話もあったのですが、推進計画を議論している時だからこそ 100 人いないと意味がありませんと、ちょっと大きく私も言ってしまいました。皆さん、チラシも各部署にいろいろ配架されるのですけれども、口コミで、こうした計画が作られる豊かなまちである仙台ということに向けて一緒に話をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

垣内会長 ありがとうございます。ただいまのワークショップにつきまして何かご質問等はございますか。よろしいでしょうか。お時間があればぜひ、ご参加ください。それではその他、確認しておきたいことなどございますでしょうか。佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員 ちょっと 1 点だけ質問です。次回ご用意いただく骨子案というものは、目指す姿と、課題、強みが整理された形で出てくるという形か、それとも、計画をどうやっていくのかという推進体制や、実効性を持たせるような運用の位置付けのようなものも含めて出てくるのでしょうか。

文化振興課長 今、佐藤委員がおっしゃったような形で、この目指す姿、それから基本理念を整理したものプラス、今後の施策の方向性なり、そういったところも含めた骨子案という形で考えてございました。

佐藤委員 最初からずっとそのことを気にしてしまっているのですが、推進体制などをどうしていくのかは、次回議論できるということですね。

垣内会長 その辺りも踏まえて、骨子案ですので、今回は特に、基本理念とキーワードについて集中的に議論いただきましたけれども、第 1 回目の議論の時にも推進体制とか PDCA の話なんかも出ております。次回は、そういったところも含めて全体像が出てくるのではないかと考えておりますがよろしいでしょうか。もちろん濃淡はあります。今回 2 回目、非常にたくさんのご議論をいただいている部分は、かなり書き込んで、それ以外のところについては触れられるだけ触れていただいて全体像がわかる骨子案になるのではと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。(事務局：そのとおりです) ということでございます。他に何か確認しておきたいことその他ございませんでしょうか。

それでは本日のご議論を踏まえまして、次回は計画の骨子案、できれば早めに事前にお送りいただいております方が議論がスムーズになる

と思いますので、よろしく願いいたします。

また委員の先生方、お忙しいとは思いますが、なにぶん、会議の回数が非常に限られておりますので、もしお気づきの点などありましたら、いつでも事務局の方までご連絡いただければ事務局の方でも作業が進めやすいかと思っておりますので、あわせてよろしく願いしたいと思います。

それでは以上の方で、本日の議論は終了したいと思います。それでは進行を司会にお返しいたします。

4. 閉会

- ・ 司会より、次回の懇話会の予定（9月上旬）をお知らせし、閉会。

—以上—